

白川「緑の区間」整備計画（案）の変更について

令和4年12月

国土交通省 九州地方整備局

熊本河川国道事務所

1. 今後のスケジュールについて

令和3年4月
～
令和4年3月

令和3年度 白川「緑の区間」整備検討会での議論

第1回：整備イメージの確認、第2回：整備コンセプト案、整備素案の検討、第3回：整備計画案の検討
その他、沿川3校区（碩台、城東、白川）でのワークショップ、現地利用者ヒアリング、
近隣住民・白川小学校個別ヒアリング、HPでの公表等を通して意見を聴取



3月31日

白川「緑の区間」整備計画（案）の公表 ※熊本河川国道事務所HPで公開中



9月下旬

令和4年度 堤防嵩上げ整備 工事着手



現時点

令和4年度 整備検討会

12月15日

1. 今後のスケジュールについて（目標の確認）
2. 堤防嵩上げの工事状況（動画）
3. 堤防デザインの検討について
4. 管理用通路等のデザインについて



令和5年
1月以降

●細部デザインや完成後の利活用・維持管理等について引き続き意見を伺う

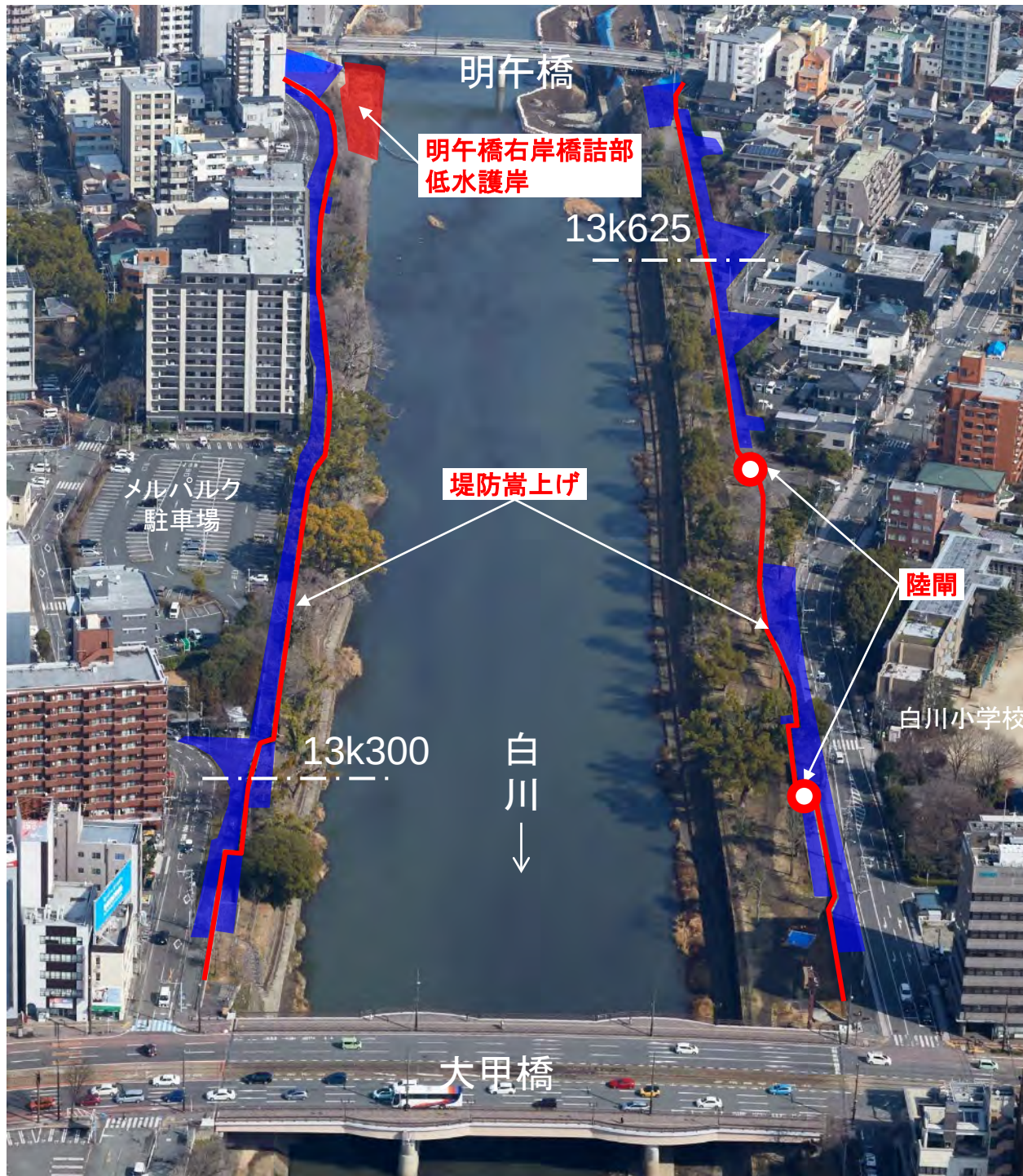


1. 今後のスケジュールについて

○令和4年度の工事(工事期間はR4.10～R5.3を想定)では、**令和5年度の出水期前までに治水機能を向上**させることを目的に、**堤防嵩上げ整備(緑の区間全体)**、**陸閘整備(左岸側2箇所)**、及び**明午橋右岸橋詰部低水護岸整備**を実施中。

○管理用通路嵩上げや階段・坂路の整備は、令和5年度に実施予定。

■整備内容と施工ステップ ※赤字: R4工事範囲

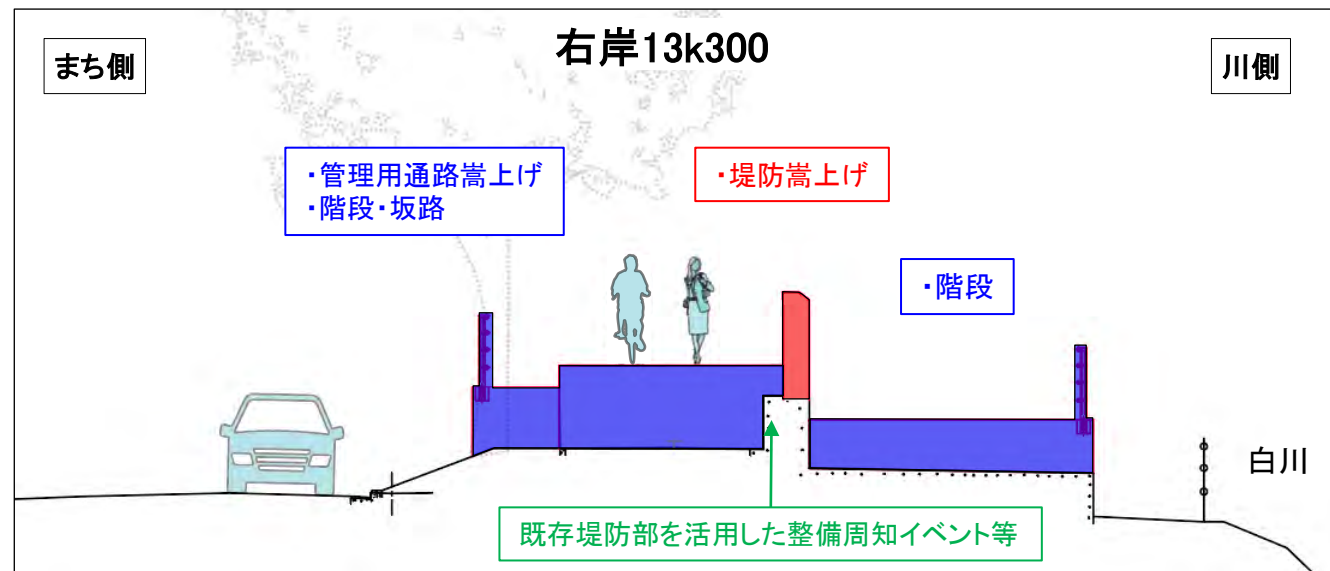
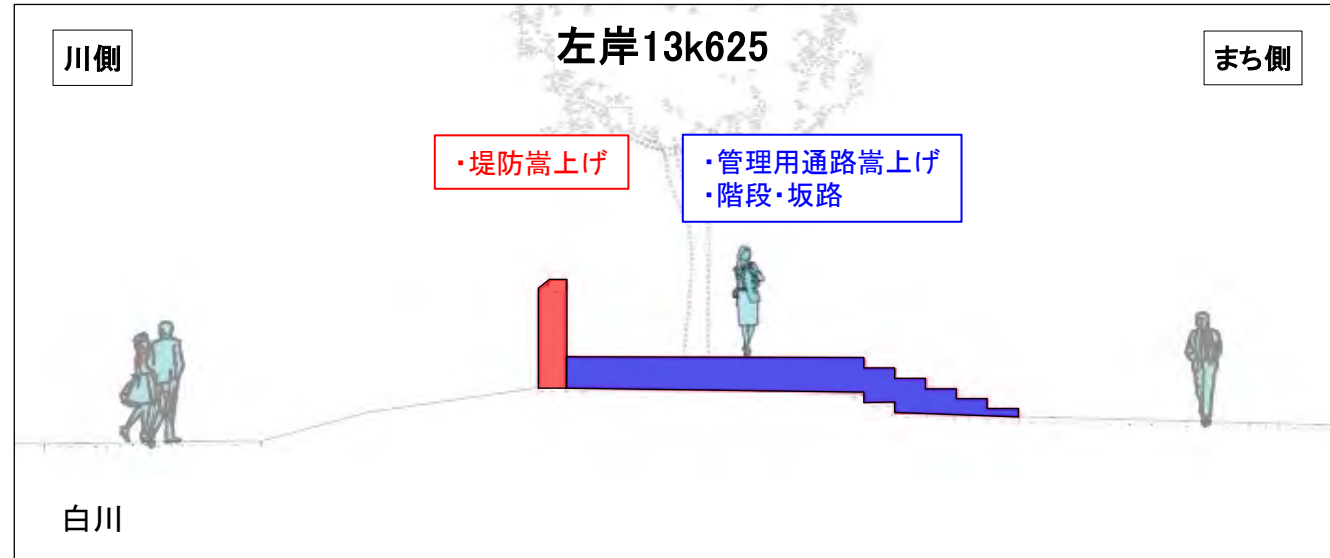


【ステップ①: 令和4年度工事】

堤防嵩上げ整備、陸閘整備、明午橋右岸橋詰部低水護岸整備

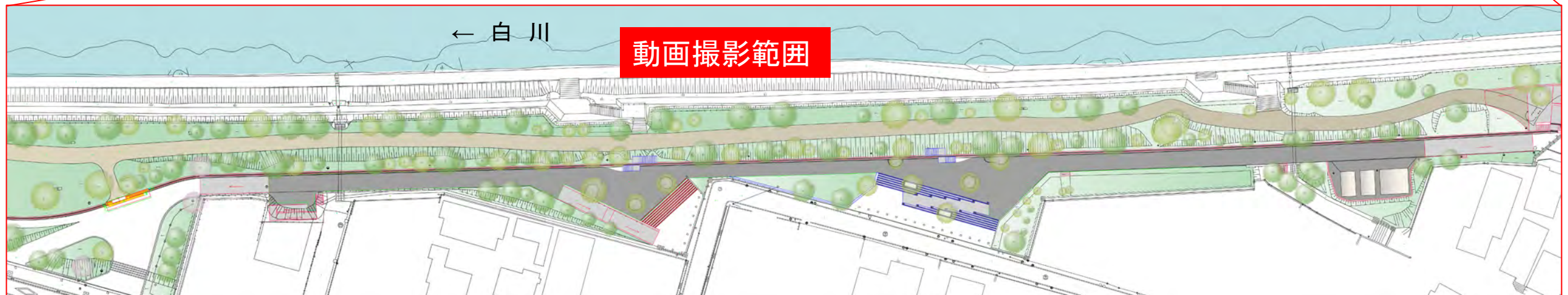
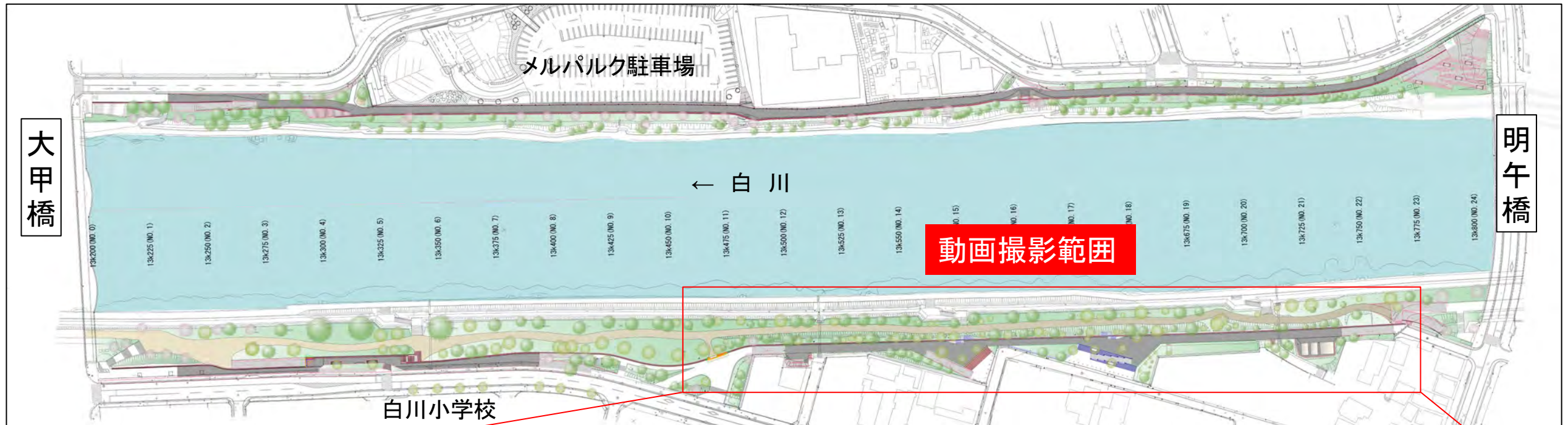
【ステップ②: 令和5年度以降工事予定】

管理用通路嵩上げ整備、階段・坂路整備、明午橋橋詰広場整備



2. 堤防嵩上げの工事状況

○本日12/15(木)に撮影した動画にて、現地の嵩上げ工事状況を報告。

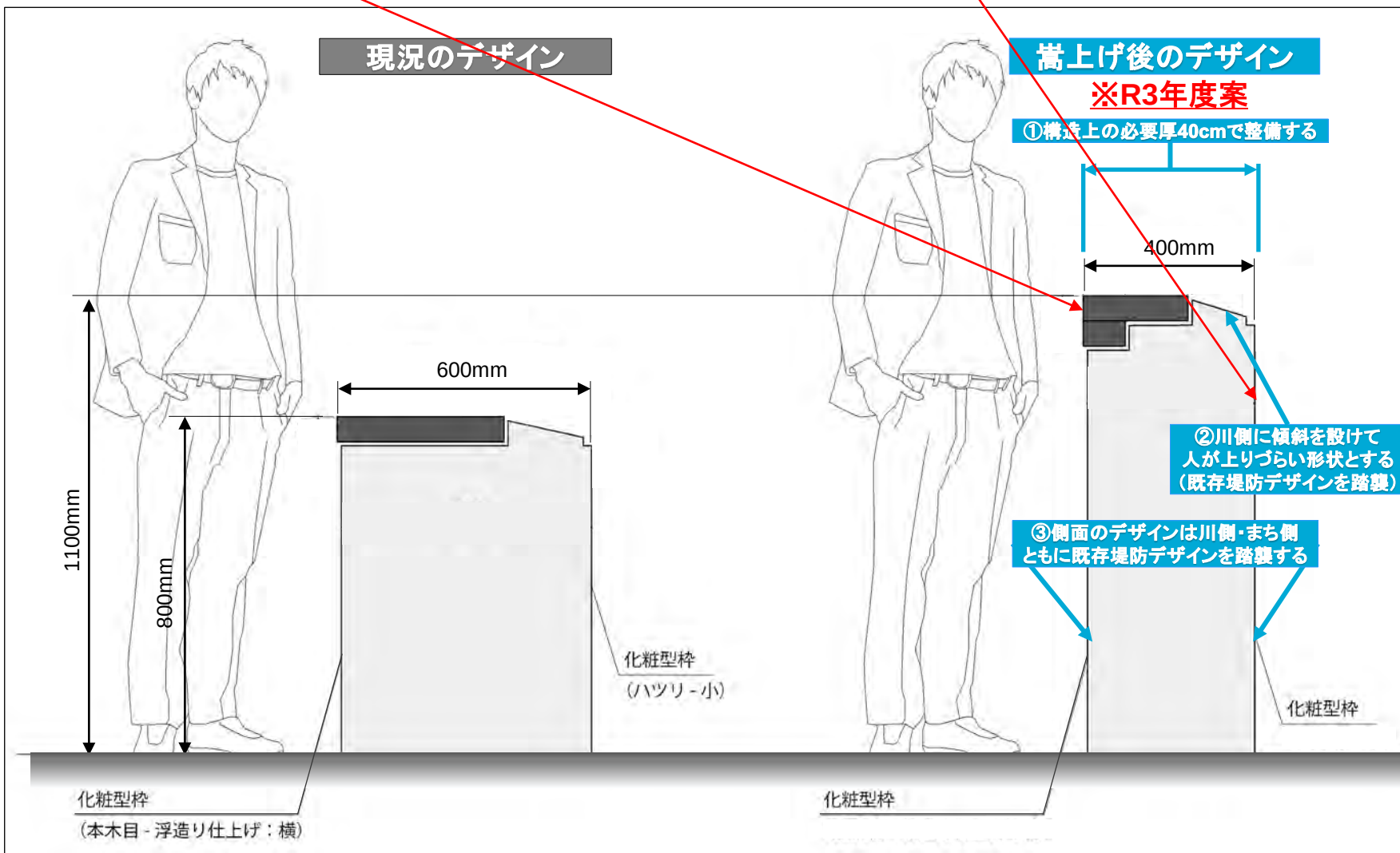


3. 堤防デザインの検討について

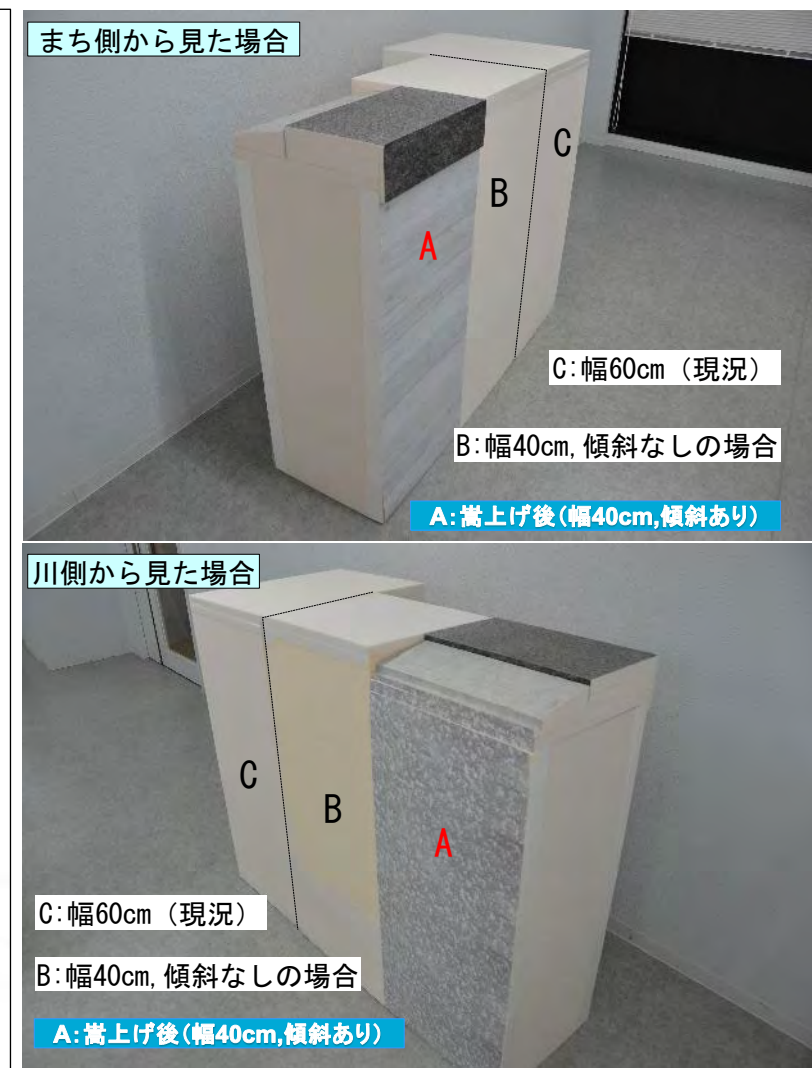
①天端の石材について
R3年度案: 石材は再利用して2段重ね
検討後: 新材を設置(1段)

②側面の仕上げ(左岸川側)について
R3年度案: 仕上げ未確定
検討後: 「焼き浮造り仕上げ」を採用

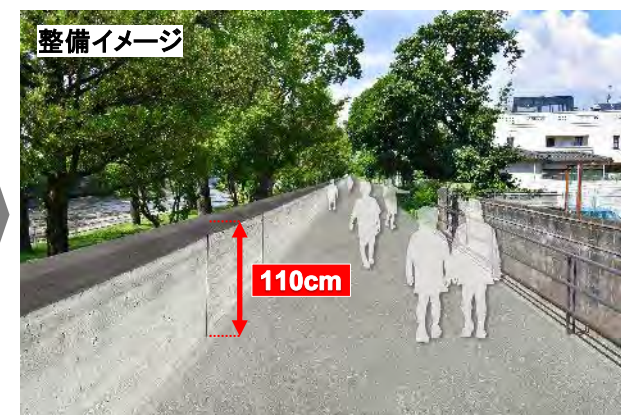
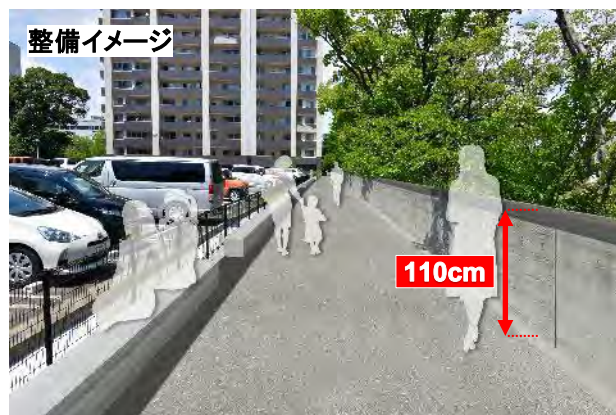
③陸間部の意匠について
R3年度案: ゲート型式のみ確定
検討後: ゲートや構造部の意匠を検討



イメージ横断面図



実物大堤防模型による比較 (R3年度)



3. 堤防デザインの検討について ①天端の石材について(見直し)

①天端の石材について

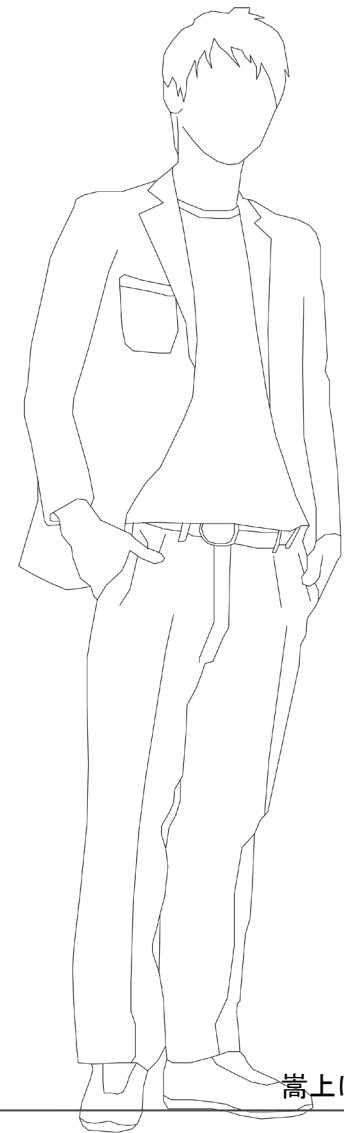
- 令和3年度検討案では、現況の石材を綺麗に剥がして、**2分割して2段に重ねて再利用**する案を検討。
- 天端石の再利用に向けた試験施工を実施した結果、石材とコンクリート間の接着材が強固に残っており、綺麗に石材を剥がして再利用することが困難であることが分かった。⇒**天端の石材は新材を1段で設置**する方針とした。
- 設置する新材のサイズについては、全体のプロポーションを考慮して**高さ80mm×幅250mm×奥行530mm(標準部)**で決定。



3. 堤防デザインの検討について ①天端の石材について(見直し)

R3年度案

石材は再利用して2段重ね
(厚さ6cm × 2段 = 12cm)

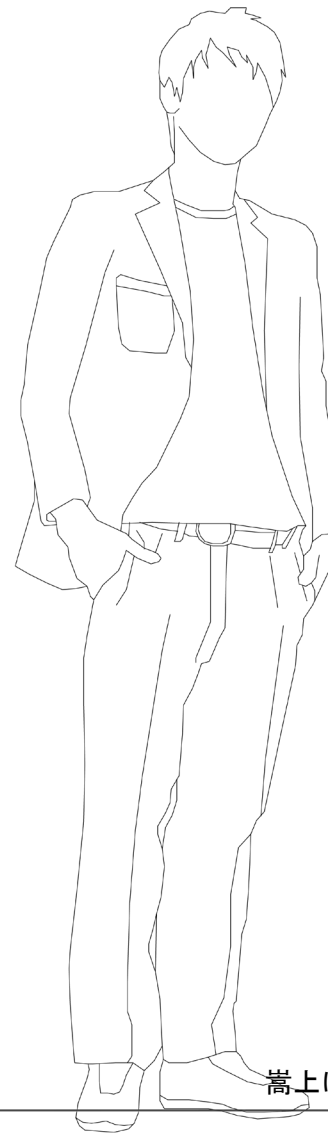


嵩上げ後の管理用通路



R4年度工事

新材を設置
(厚さ8cm × 1段 = 8cm)



嵩上げ後の管理用通路

仕上げ未確定

「焼き浮造り仕上げ」を採用
※次ページ以降参照

②側面の仕上げ（左岸川側）について

- 現在の堤防立面の化粧型枠は、川側は「ハツリ模様（小）の化粧型枠」、まち側は「天然杉の本木目」であり、令和4年度の工事でも同様の化粧型枠を使用。
- 左岸は堤防の川側に人が近づきやすいため、川側も「天然杉の本木目」で工事。
- 天然杉の本木目の仕上げについては、試験施工現地見学会（R4.9.26）において現況よりも木目がはっきりと出る「焼き浮造り仕上げ」とすることに決定。（※地元代表者、熊本大学学識者と確認）

右岸：川側



右岸：まち側、左岸：まち側・川側



3. 堤防デザインの検討について ②側面の仕上げ（左岸川側）について

試験施工現地見学会（R4.9.26）の様子

焼き浮造り
仕上げ（本杉）

浮造り
仕上げ（本杉）

樹脂型枠



樹脂型枠



焼き浮造り仕上げ（本杉）：採用



浮造り仕上げ（本杉）：現況

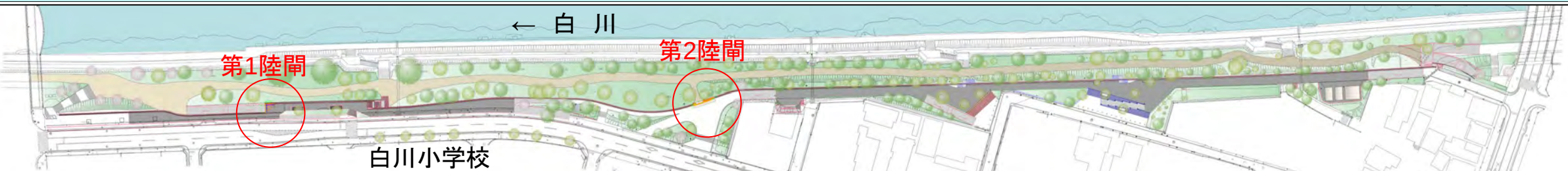


3. 堤防デザインの検討について ③陸閘部の意匠について

③陸閘部の意匠について

- ①通路を歩く人から見るとゲート部分が堤防よりも通路側に張り出すため、陸閘部直前の堤防の一部を**垂直方向に張り出してゲートを隠す**。
- ②構造部の側面は、堤防と合わせて**杉板化粧型枠を採用する**。
- ③ゲート扉体は、耐久性と維持管理面を考慮して、**ステンレス鋼を採用する**。

大甲橋



第1陸閘: スイングゲート

②堤防と合わせた側面意匠

①ゲートを隠す

構造部

ゲート部

③耐久性と維持管理面を考慮した材質

スイングゲート事例: 山国川(ステンレス鋼)



第2陸閘: 横引きゲート

①ゲートを隠す

13k475

構造部

②堤防と合わせた側面意匠

ゲート部

③耐久性と維持管理面を考慮した材質

横引きゲート事例: 北川(ステンレス鋼)



3. 堤防デザインの検討について ③陸閘部の意匠について

整備イメージ平面図・断面図
第1陸閘(スイングゲート)

①堤防でゲートを隠す

②陸閘部の側面は堤防と合わせる
(杉板化粧型枠)

陸閘部付近拡大

平常時

閉鎖時

閉鎖時

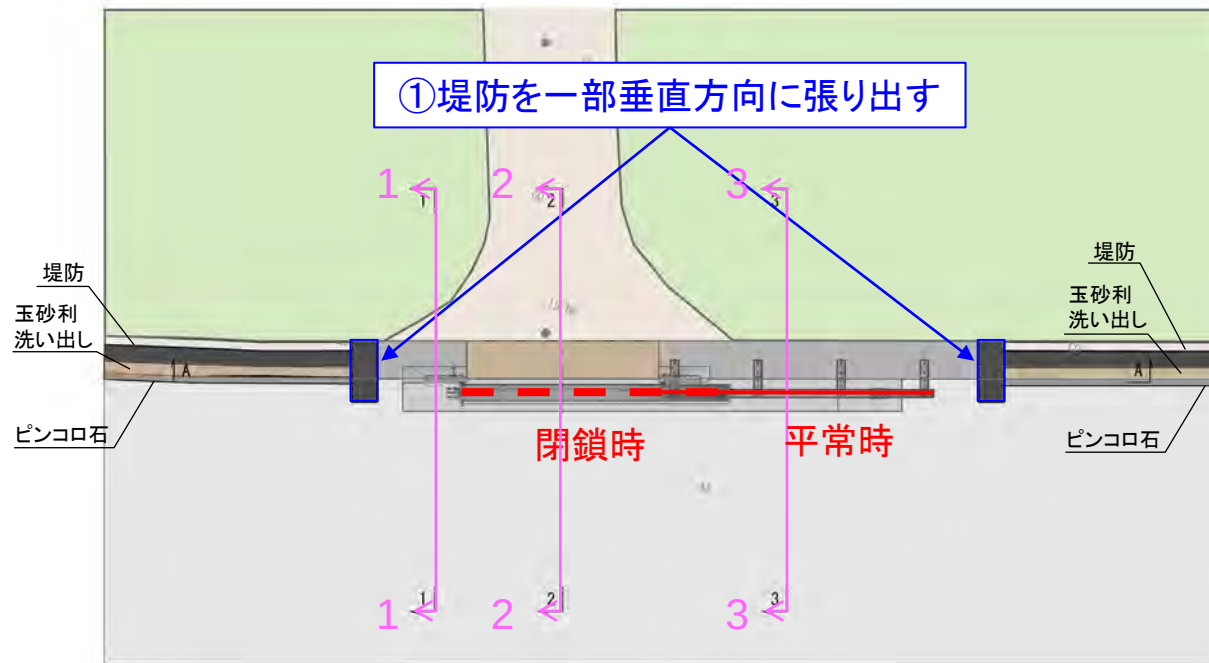
平常時

③ゲートは耐久性等考慮して
ステンレス鋼を採用する

3. 堤防デザインの検討について ③陸閘部の意匠について

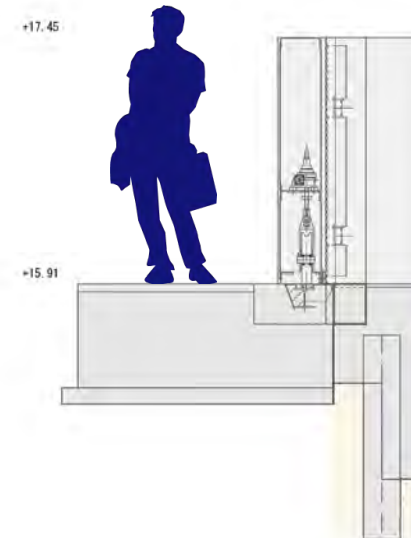
整備イメージ平面図・断面図 第2陸閘(横引きゲート)

平面図

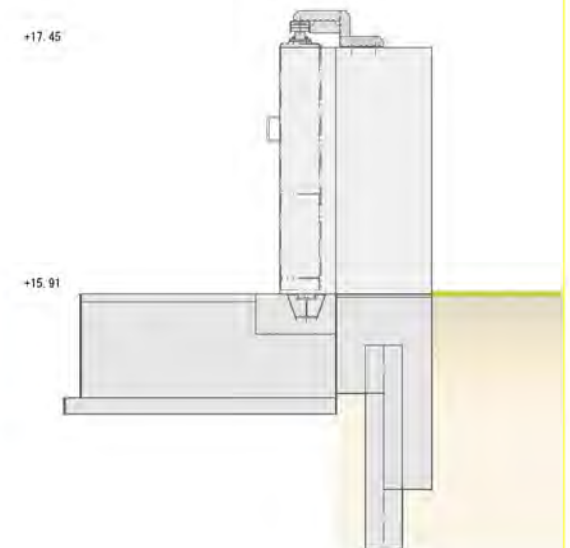


断面図

1-1

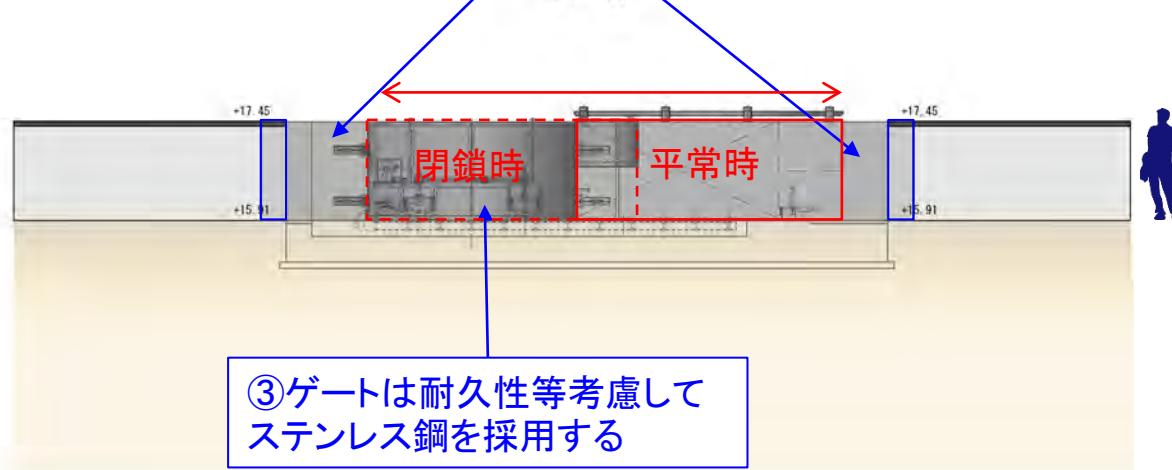


3-3

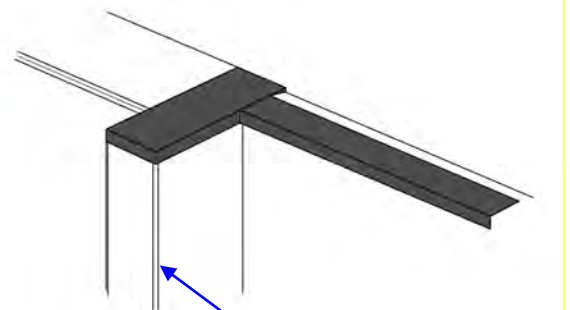
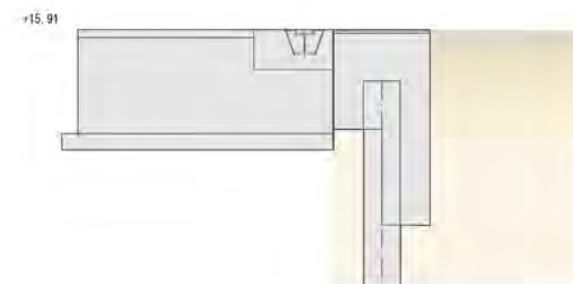


②陸閘部の側面は堤防と合わせる(杉板化粧型枠)

正面図
(A - A)



2-2



④張り出し部の角は角を落とす

整備イメージ図：第2陸閘



まち側より

整備イメージ図：第2陸閘

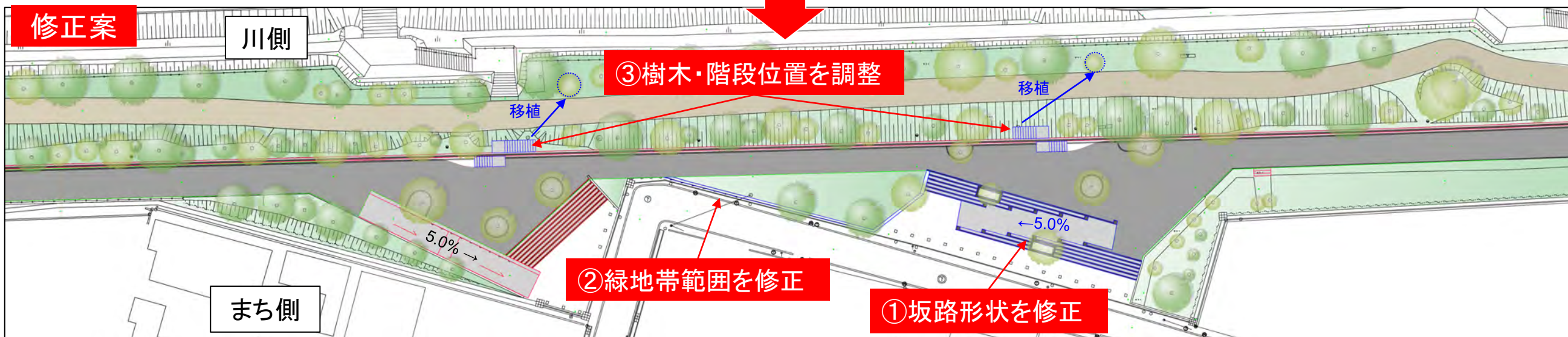
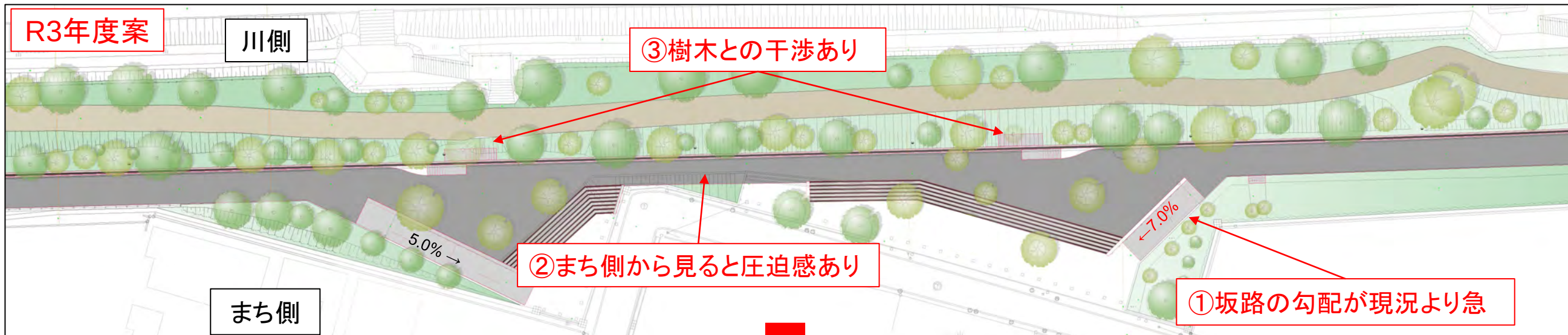
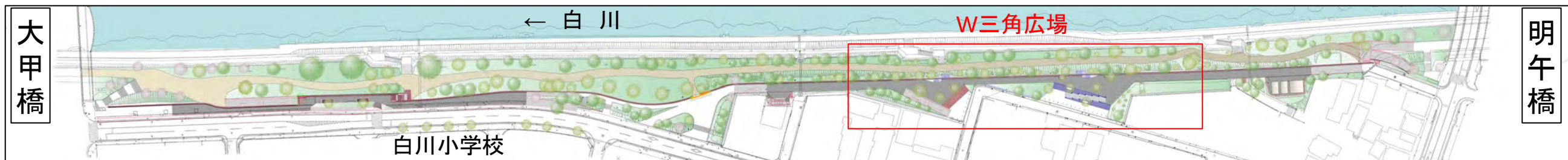


川側より

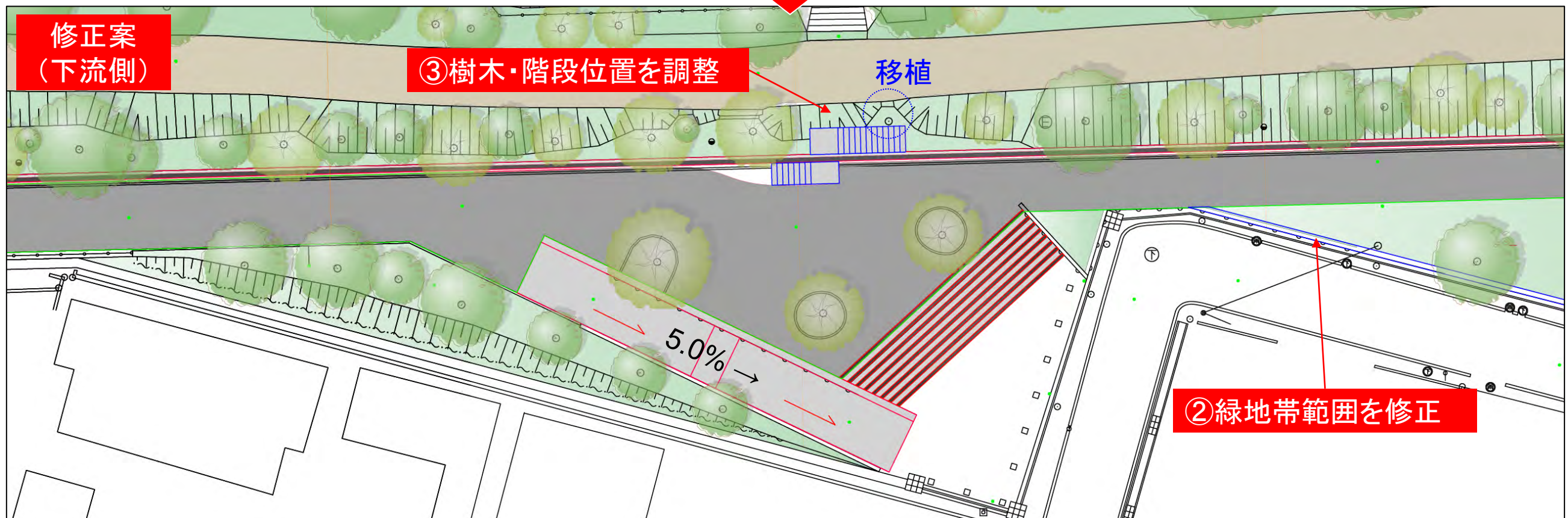
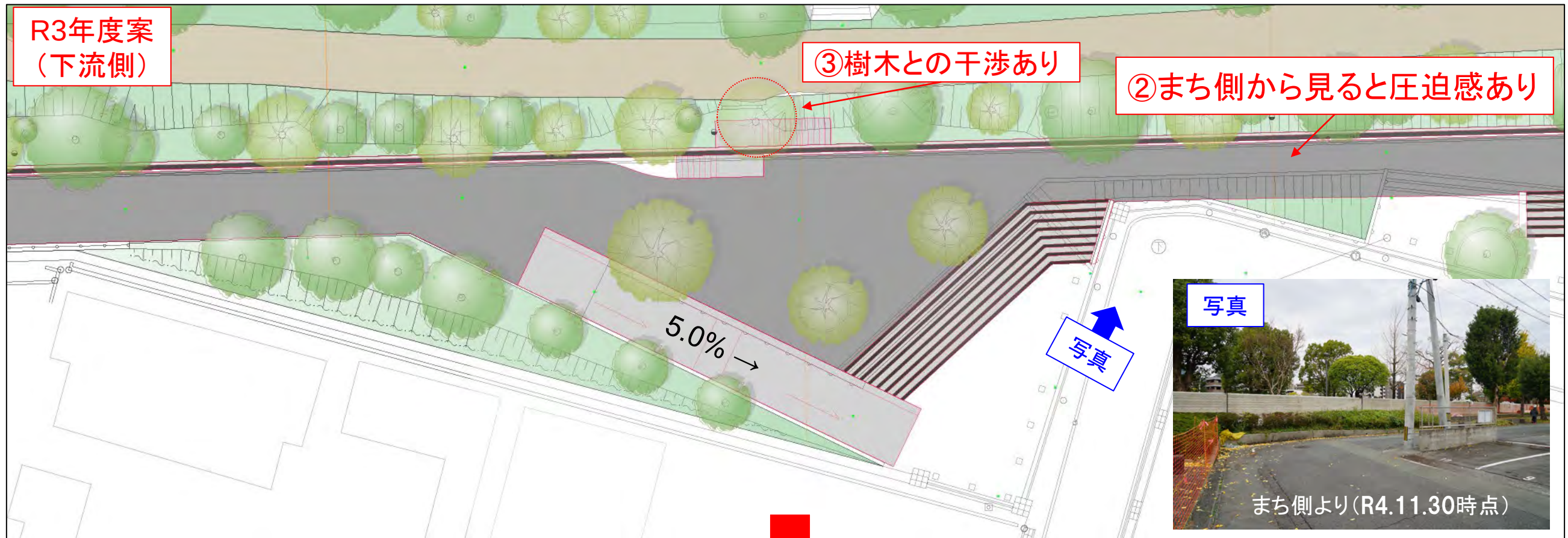
4. 管理用通路等のデザインについて ①W三角広場の修正案について

○現地再調査の結果、以下の若干の修正の必要が生じた。

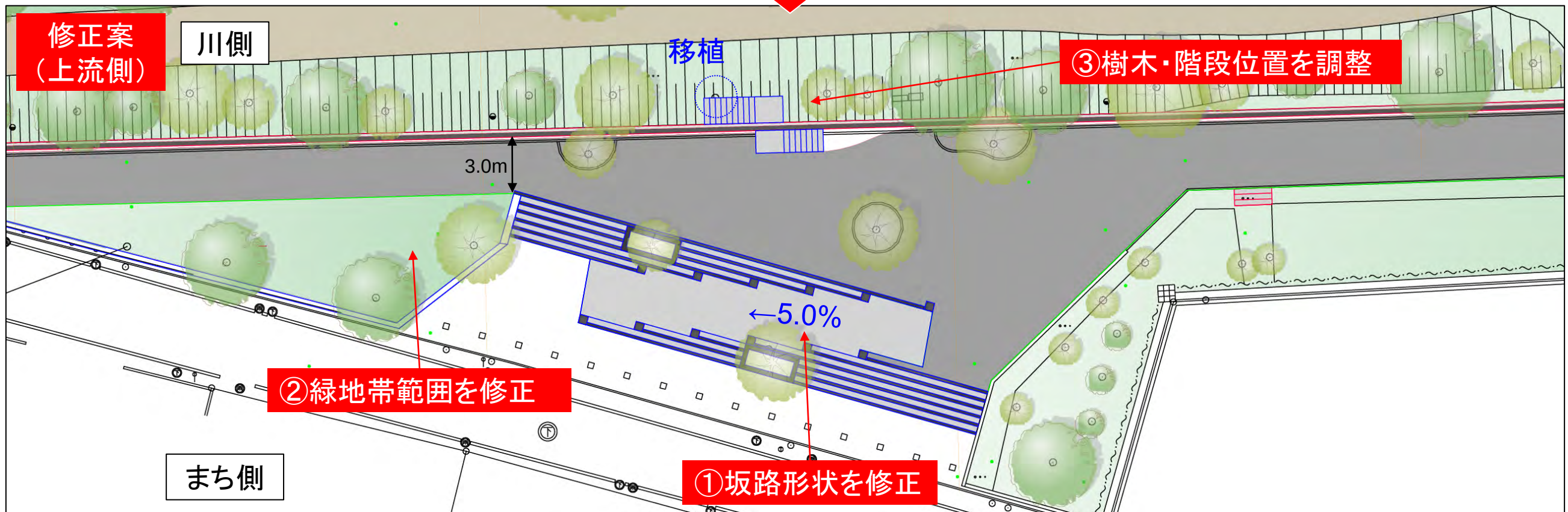
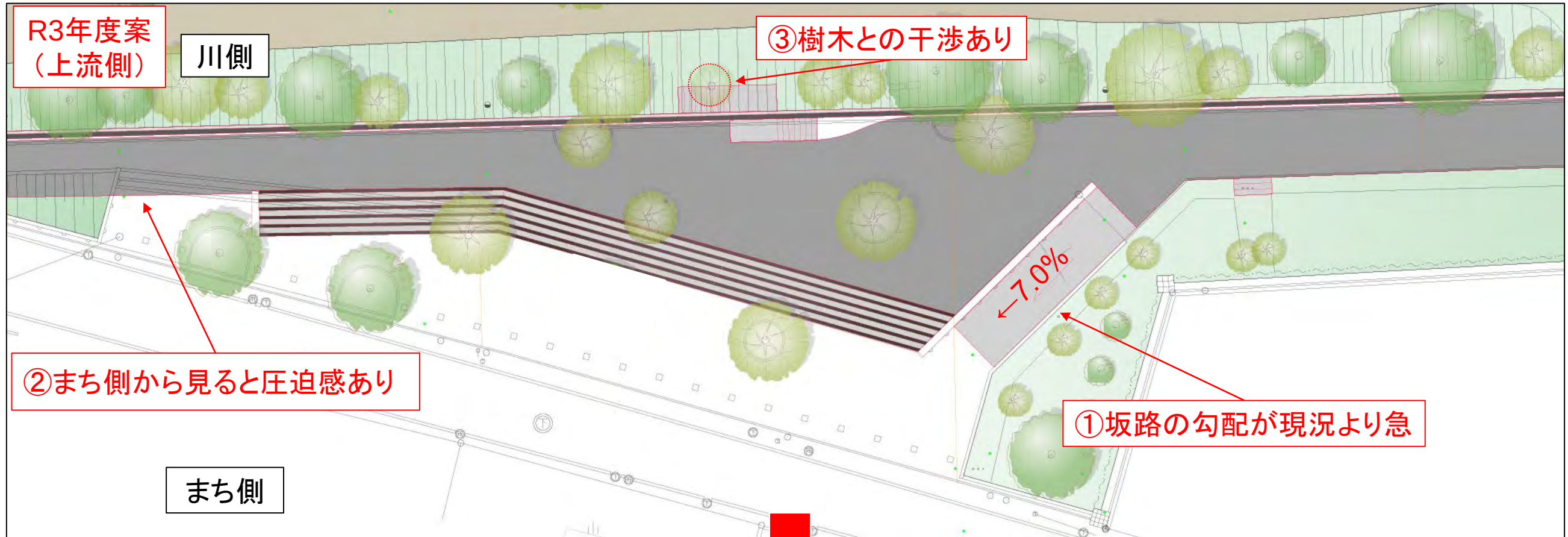
- ①上流側広場の坂路について、現況と同程度の勾配を確保するために**坂路形状を修正**。
- ②まち側から見た時の堤防の圧迫感を和らげるため、**緑地帯範囲を修正**。
- ③川側への**乗越階段**について、一部樹木の位置を調整することで利用しやすい位置に**修正**。



4. 管理用通路等のデザインについて ①W三角広場の修正案について

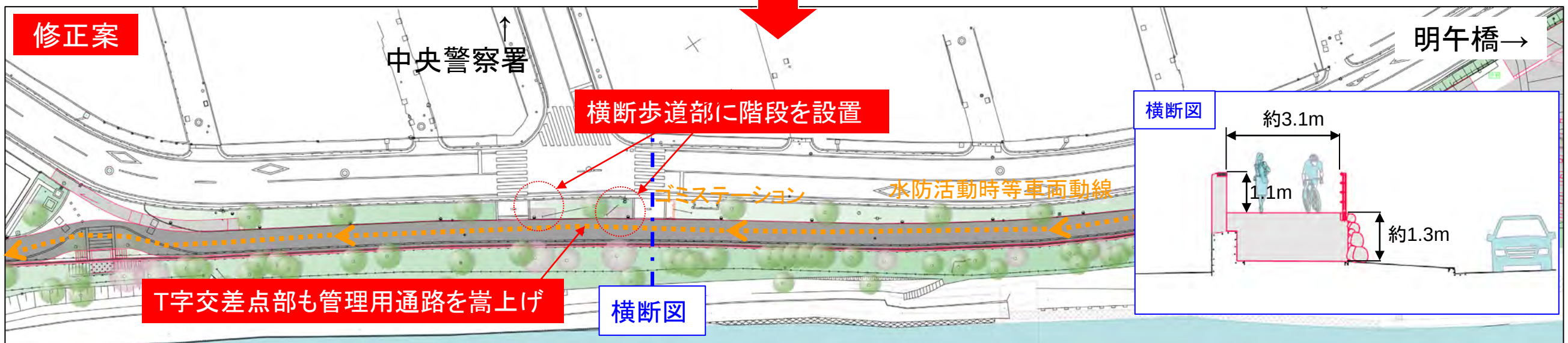
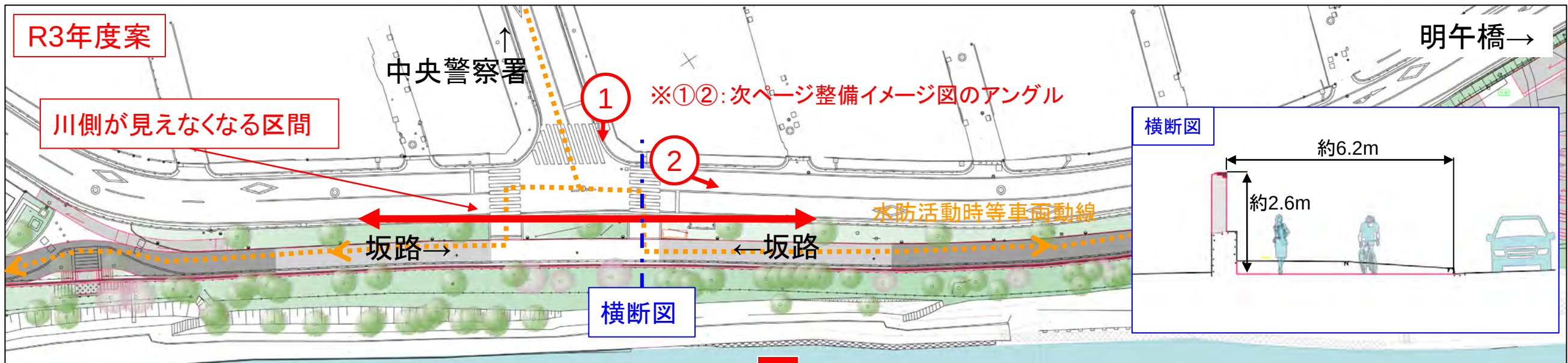
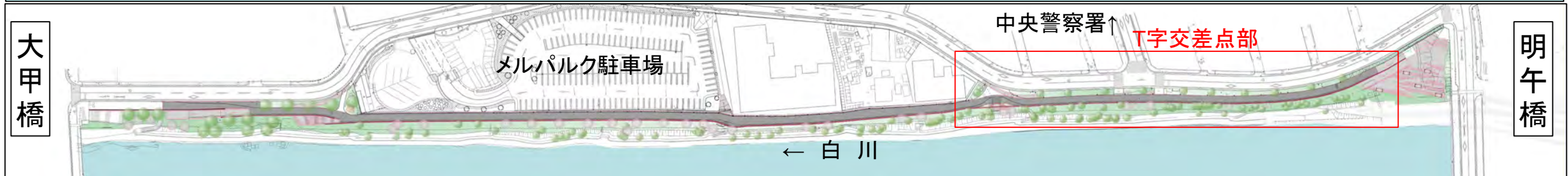


4. 管理用通路等のデザインについて ①W三角広場の修正案について



4. 管理用通路等のデザインについて ②T字交差点部の修正案について 九州地方整備局

- 令和3年度時点の整備案では、水防活動時等の車両動線確保のため**T字交差点部の管理用通路は嵩上げしない案**を検討。
- 坂路区間の一部で水防活動時等に川側が見えなくなる区間が発生するため、車両動線は明午橋側から確保することとし、河川管理上の観点から再度見直しを行い、**T字交差点部の管理用通路を嵩上げる案**を検討。
- T字交差点部の歩行者動線確保のため**横断歩道部に階段を設置**。



4. 管理用通路等のデザインについて ②T字交差点部の修正案について

R3年度案:アングル①



中央警察署側より交差点部

R3年度案:アングル②



交差点部より明午橋方向

修正案:アングル①



中央警察署側より交差点部

修正案:アングル②



交差点部より明午橋方向